平成23年度幸区区民会議

第7回全体会議
安心・思いやり部会経過報告

平成24年3月29日

1

安心・思いやり部会　第3期活動報告

（1）第3期区民会議の検討概要
　1）継続テーマの選定
　2）新規テーマの選定
　3）部会の体制
（2）具体的な取組内容の検討
　1）新規テーマの具体的な検討
　　①救急医療情報キットの幸区版
　　②高齢者（特に独居）の実態調査
　　③高齢者を対象とした交流の場づくり
　2）継続テーマの具体的な検討
（3）第3期区民会議からの提言
　1）新規テーマの提言
　2）継続テーマの提言

2

（1）第3期区民会議の検討概要

1）継続テーマの選定

各委員から提案された取組内容を整理し、全体会において第2期からの継続テーマと、第3期からの新規テーマを選定した。

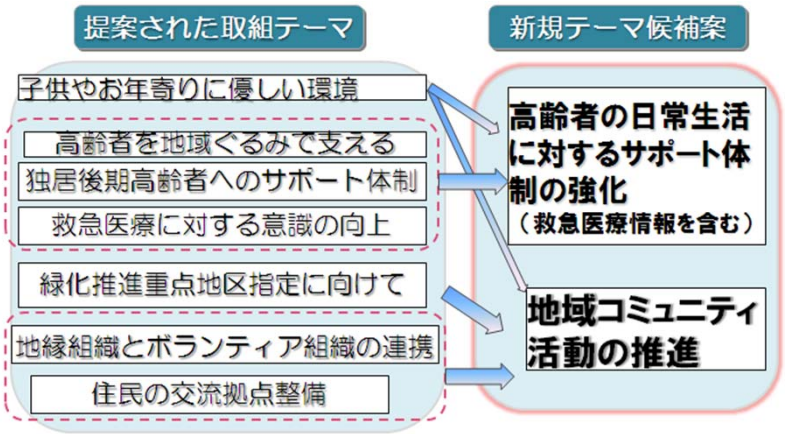
新規・継続テーマの案の内容を勘案し、2つの部会を設定し、本部会（B部会）においては「夢見ヶ崎公園の魅力発信に関するソフト的取組」を継続テーマとした。

3

（1）第3期区民会議の検討概要

2）新規テーマの選定

新規テーマは、提案された複数のテーマについて部会で検討を行い、以下の2つのテーマに絞り込んだ。



4

（1）第3期区民会議の検討概要

2）新規テーマの選定

新規テーマは2つを設定したが、同時に検討していくこととした。特に「地域における弱者のサポート」と「交流の場づくり」を中心に取組を検討してきた。

（主な検討内容）
- 高齢者とコミュニティは密接に関係しており、同時に取り組んでいけばよい。
- 困っている高齢者の現状を把握するために、まずは調査をすることが大事である。
- 困っている高齢者の問題は、まさに時のテーマである。
- コミュニティの拠点づくりには、人が集まる仕掛けづくりも重要である。

5

（1）第3期区民会議の検討概要

3）部会の体制

当初B部会として発足したが、取組の具体的内容がある程度固まった段階で正式な部会名を「安心・思いやり部会」に決定した。

また、部会長・副部会長は委員の互選により、以下の両名に決定した。

・部会長：土倉委員／副部会長：神谷（美）委員

6

（２）具体的な取組内容の検討

１）新規テーマの具体的な検討

検討の中で、２つの新規テーマは「高齢者のサポート体制と地域コミュニティ」へと１つに融合され、具体的な取組項目として主に以下の３つが検討されてきた。

①救急医療情報キットの幸区版
②高齢者（特に独居）の実態調査
③高齢者を対象とした交流の場づくり

7

（２）具体的な取組内容の検討

１）新規テーマの具体的な検討

①救急医療情報キットの幸区版

東京都港区などで導入されている「救急医療情報キット」の幸区版を作成し、独居の高齢者等に配布することを検討した。

コスト削減のため、空きペットボトルの活用などの方策も検討したが、「個人情報保護の問題」がネックとなり、配布したい世帯の抽出ができないことなどから、実現が難しいという結果となった。

図．救急医療情報キット（港区）

8

（2）具体的な取組内容の検討

1）新規テーマの具体的な検討

②高齢者（特に独居）の実態調査

何らかの施策を検討する上で、「まずは独居高齢者などの実態を知ることが大事」という議論が高まり、実態調査の実施を検討した。

検討の中では、川崎市や幸区など既存の調査結果のレビューや高齢者を担当する課との意見交換、地区の民生委員側の意見把握なども行った。

独居やそれを支援する方々へのアンケートなども検討したが、個人情報保護の問題から実施が難しいことがわかった。そのため、意見交換会などを行い、参加者への意見把握やアンケート調査をしていくことを検討した。

9

（2）具体的な取組内容の検討

②高齢者（特に独居）の実態調査

（アンケート実施の流れ）

①民生委員を対象としたアンケート内容の議論・確定
・アンケート項目
・配布・回収方法（会長会等への要請の方法含む）

②民生委員の会長会を通じアンケート協力の要請
（案：土倉会長を通じ、委員・行政で）

③アンケートの実施・回収

（必要に応じて回収の補助等の実施）

④アンケート結果の集計・整理・結果の分析まとめ

※必要に応じて以下を実施
⑤民生委員に対するヒアリングの実施
（高齢者のより詳細な実態把握が必要な場合）

高齢者のサポートに向けて、具体的な取組を検討

（アンケート調査票・案）

幸区区民会議　民生委員に対する高齢者の実態調査 アンケート（案）

【回答用紙ご記入上の注意点・ご記入方法】
・ 回答は、以下の枠内（点線）に直接ご記入ください。
・ 判断付きづらい設問がありと思われますが、基本的に「ご自身の感覚で」お答えして構いません。

（1）高齢者（特に独居）の実態について

Q-1）民生委員の活動の中で、日頃高齢者の方々と接する中、高齢者の方はどのようなことに関心を持っているとお感じになりますか。（当てはまるもの全てを選択）

1．日常生活（不安など）　2．地域の活動　3．老人会等の活動　4．趣味のサークル等の活動
5．家族　6．テレビやメディアなどの情報　7．年金や資産活用　8．観光・レジャー
9．その他（　　）

Q-2）訪問の対象とする独居の高齢者の中で、「日頃、何らかのかかわり・交流を持っている人が（おそらく）いない」と考えられる高齢者は何世帯ぐらい存在しますか。（　　）世帯ぐらい
また、それは訪問の対象とする独居の高齢者世帯の中で、どの程度の割合になりますか。（1つ選択）

1．1割未満　2．1割～2割　3．2～3割　4．3～4割　5．4～5割　6.5割以上

Q-3）訪問の対象とする高齢者世帯のうち、マンションに居住している世帯はどの程度の割合で存在しますか。（1つ選択）

1．1割未満　2．1割～2割　3．2～3割　4．3～4割　5．4～5割　6.5割以上

また、これらマンション世帯のうち、訪問できない世帯はどの程度の割合で存在しますか。（1つ選択）

1．1割未満　2．1割～2割　3．2～3割　4．3～4割　5．4～5割　6.5割以上

※訪問できないとは、オートロックなどのセキュリティがされない、周囲の家族に重荷を背負わされるなど様々な理由を含みます。

Q-4）幸区で発行している高齢者ハンドブックには、かかりつけの医療機関や緊急時の連絡先などを記入する欄がありますが、こういった救急医療情報を高齢者に記入してもらうとしたら、自分の力だけでは記入できないと思われる人はどのぐらいの割合で存在すると思いますか。（独居・同居を問わず、担当される全ての高齢者世帯に占める割合でお答えください）（1つ選択）

1．1割未満　2．1割～2割　3．2～3割　4．3～4割　5．4～5割　6.5割以上

Q-5）特に独居の高齢者の日常生活を考えた時に、どのようなことに困っていると考えられますか。
（下の枠内に記述してください）

10

（２）具体的な取組内容の検討

１）新規テーマの具体的な検討

③高齢者を対象とした交流の場づくり

重点項目として「高齢者を対象とした交流の場づくり」についての検討を行ってきた。当初は、落語などのイベントの実施を想定していた。アンケート等実態調査の実施ができなかったことから、困りごとなどを聞きながら実態把握もしていくことを想定し、内容を検討してきた。

項目	詳細
参加者	・独居などの高齢者、これらの人を「引っ張り出す」元気な人
メインイベント	・落語、囲碁、カラオケ、手芸・工作、軽い運動など
実態の把握	・簡易なアンケートの実施 ・「困っていること」を話し合うワークショップの開催　など
交流イベント	・食事会などの開催
場所	・老人いこいの家などの公共施設

11

（２）具体的な取組内容の検討

③高齢者を対象とした交流の場づくり

2カ年の検討の中で、東日本大震災が発生したことから、本テーマの取組内容についても、内容を見直していくべきであるとの意見が出てきた。

検討の結果、震災をテーマとして高齢者層の困りごとを話合うシンポジウムを開催することとなりました。

（シンポジウムの実施概要）

・「震災」をテーマに、高齢者層の「困りごと」を話し合う意見交換会を実施する

・前段では、防災への意識を高めるため、川崎市危機管理室による「ぼうさい出前講座」を併せて実施する

12

（2）具体的な取組内容の検討

③高齢者を対象とした交流の場づくり

（シンポジウム実施の背景や意義）

・東日本大震災が発生し、地域による支え合いである「共助」への意識が高まりつつある。

・被災地では、厳しい生活を余儀なくされている方が多いが、そうした苦しい状況の中で「地域の中で支え合いが活発に行われ、地域コミュニティが活発化している」「新たな交流の場が生まれている」という事例もある。

・苦しい状況の中でも支え合いができるのは「日頃から地域の中で自然な交流が行われ、交流の場があった」ことが大きい。

・今回の震災を契機として、地震や防災についての知識や意識を高めつつ、地域コミュニティの役割を見直していくこと、そのための交流の場づくりのあり方を検討することは意義がある。

13

（2）具体的な取組内容の検討

③高齢者を対象とした交流の場づくり

○プレシンポジウムの実施（テーマの設定）

シンポジウムは南河原・御幸・日吉の3地区での実施とすることを決定。部会では、「まずはやってみることが大事」との認識が高まり、プレシンポジウムとして南河原地区で第一弾を実施することとなった。

プレシンポジウムでは、全体のテーマと意見交換会のテーマを分けて設定した。

全体のテーマ	いざという時のために役に立つ地域における防災対策出前講座 ～お年寄りなどを見守り、ふれあいを通して地域の支え合い活動を活発化させるには～
意見交換会のテーマ	①震災当日に「困った」こと ②震災当日に「助かった、安心した」こと ③地域で協力し合えること（共助） ④行政に望むこと（公助）

14

（2）具体的な取組内容の検討

③高齢者を対象とした交流の場づくり

○プレシンポジウムの実施（当日の実施概要）

プレシンポジウムは、平成23年12月2日（金）10時から約1時間半の実施とした。当日は、ぼうさい出前講座以外の部分については、区民会議委員が主導的な役割を担う形で実施した。

	項目	時間
開会		10:00
第一部	ぼうさい出前講座	10:05～10:45
休憩		10:45～10:55
第二部	意見交換会	10:55～11:25
	テーマ1「震災当日困ったこと」	（15分）
	テーマ2「震災当日助かったこと（共助）」	（10分）
	テーマ3「地域の交流を促す、場づくりのために」	（5分）
閉会		11:25

15

（2）具体的な取組内容の検討

③高齢者を対象とした交流の場づくり

○プレシンポジウムの実施（当日の様子）

16

（２）具体的な取組内容の検討

③高齢者を対象とした交流の場づくり

○プレシンポジウムの実施（当日の様子）

17

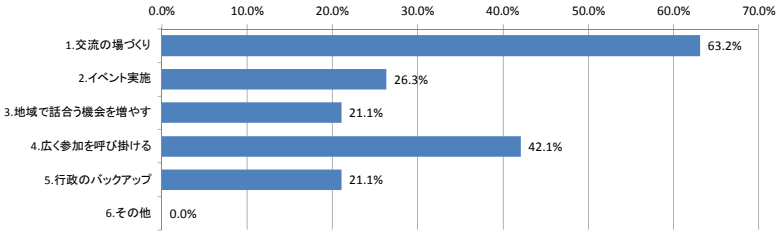
（２）具体的な取組内容の検討

③高齢者を対象とした交流の場づくり

○プレシンポジウムの実施（アンケートの結果）

プレシンポジウムでは、参加者約40名のうち、20名の方にご協力頂き、アンケート調査を実施した。「地域が弱者を見守り、支え合い活動を活発化させるため」に必要なこととして、「交流の場づくり」が6割を越え、最も**ニーズ**が高いという結果を得た。

問２．独り暮らしのお年寄りなど、特に日常生活で弱者となる方々を地域が見守り、交流などふれあいを通して地域の支え合い活動を活発化させていくためには、どんなことが必要だと思いますか。（以下から２つまで選んで○をしてください）



18

（2）具体的な取組内容の検討

③高齢者を対象とした交流の場づくり

○プレシンポジウムの実施（意見交換会の主な結果）

意見交換会では、特に「共助」に関し、主に次のような意見や感想が出された。

・小さな子供を連れた自分の息子が都心で被災したが、自分は運転ができないので近所の方が車を運転してくれた。
・地震発生時、家に独りでおり、どうしていいかわからなったので家の畑に出たら、近所の人も「入れて」と避難してきた。不安が薄れ、安心できた。
・独り暮らしのおばあさんの話だが、震災時に広域避難所である学校に行った際、自分では得られない情報や周りの人がいたことで安心した。
・「共助」の妨げになるのが個人情報保護。ごく近所の家のことしかわからない。個々人の繋がりだけでは限界がある。

19

（2）具体的な取組内容の検討

③高齢者を対象とした交流の場づくり

○シンポジウムの実施（プレシンポジウムの反省点）

プレシンポジウムを実施した反省点・課題として次のような点が挙げられた。この点を踏まえ、シンポジウムの内容を見直した。

・発表形式だと、参加者数が多くても1人しか発表できず、多くの意見が把握できない
・参加者層大半が同居家族有の世帯で「困った」と感じる人が少なく、困りごとの種類も、独居者など弱者層が抱える問題とは少し異なる
・「場づくり」の議論の時間が特に短く、参加者が趣旨を理解する前に議論の時間が終わってしまった

20

（２）具体的な取組内容の検討

③高齢者を対象とした交流の場づくり

○シンポジウムの実施（プレシンポジウムの反省点）

プレシンポジウムを実施した反省点・改良点を部会で検討し、シンポジウムでは主に次の変更を加えた。

1．テーマの変更

・「困ったこと」をベースに話を拡げるよりは、「地域のコミュニティや場づくり」という、皆が共有できるテーマに絞り、時間を多く割く。

2．意見把握方法の変更

・発表形式から、複数班に分かれた「ワークショップ形式」に変え、参加者全員の意見を把握できるようにする。

・ワークショップでは、区民会議委員が司会を行い、参加者から意見をうまく引き出す。

21

（２）具体的な取組内容の検討

③高齢者を対象とした交流の場づくり

○シンポジウムの実施（御幸・日吉地区での実施概要）

シンポジウムは、御幸地区・日吉地区で各１回実施した。

内容は、より多くの参加者の意見を把握するため、意見交換会をワークショップ形式で行うように変更した。

また、両日とも、東日本大震災の被災者の方（宮城県女川町から幸区に避難中）に体験談をお話頂いた。

地区	開催日時	場所	参加者数
御幸	平成２４年２月１４日（火） 10:00～12:00	幸区役所5階第1会議室	約70人
日吉	平成２４年２月２３日（木） 10:00～12:00	日吉合同庁舎2階会議室	約90人

22

（2）具体的な取組内容の検討

③高齢者を対象とした交流の場づくり

○シンポジウムの実施（被災者の方による講演）

「ぼうさい出前講座」と意見交換会（ワークショップ）の間の時間を設定し、女川町からの被災者の方による震災体験談をお話頂いた。時折ユーモアも交えながら、震災の壮絶さを訴える内容に会場の参加者も聞き入っていた。

（御幸地区）

（日吉地区）

23

（2）具体的な取組内容の検討

③高齢者を対象とした交流の場づくり

○シンポジウムの実施（ワークショップの実施①）

意見交換会は、区民会議委員がテーブル別の司会となり、事務局はサポートとして参加した。実施にあたっては事前に打合せを行い、議論の誘導方法などを調整した。ワークショップは御幸地区が4班、日吉地区が3班に分かれて実施した。

（開始前の打合せ風景：日吉地区）

（ワークショップの様子：御幸地区）

24

（2）具体的な取組内容の検討

③高齢者を対象とした交流の場づくり

○シンポジウムの実施（ワークショップの実施②）

ワークショップでは、参加者のほぼ全員から細かく意見を把握することができた。終了後は参加者全員が再度集まり、総括を行った。総括では、テーブルごとに司会をした区民会議委員が各班での意見をまとめて発表した。

（結果発表の様子：御幸地区）

（結果発表の様子：日吉地区）

25

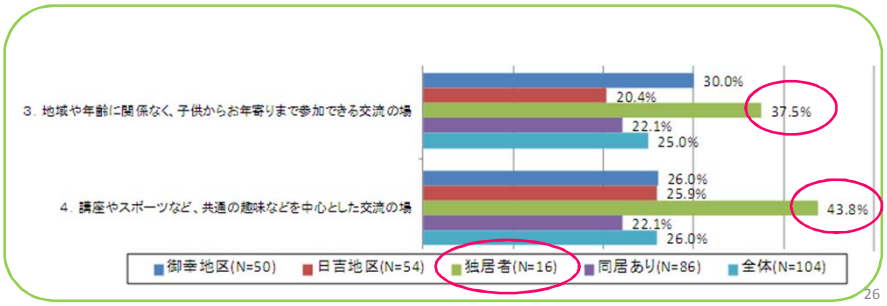
（2）具体的な取組内容の検討

③高齢者を対象とした交流の場づくり

○シンポジウムの実施（アンケートの実施結果）

シンポジウムでは、「日頃利用する交流の場」の利用状況と要望についてのアンケートを実施した。

「交流の場」へのニーズとして、独居高齢者は、「共通の趣味中心」「年齢に関係なく参加できる」場へのニーズが高くなっており、地域や年齢を限定せずに参加できる場へのニーズが高い。



26

（2）具体的な取組内容の検討

③高齢者を対象とした交流の場づくり

○シンポジウムの実施（意見交換会からの主な知見）
（「交流の場」における工夫事例）

○地域間交流
・大規模集合住宅で複数フロア単位で家族参加型座談会を実施
・緊急連絡網を作って管理組合で住民情報を把握
・町会同士が連携し合同運動会・敬老会を実施

○団体間の連携
・高齢者中心のクラブを作り、大会に出場し他団体との連携促進
・「自治会の中の老人クラブ」という位置付けを行う
・町内会・自治会、老人クラブ、母親クラブ、消防団などの関わりを相互に機能させていく

○多世代交流の場づくり
・夢見ヶ崎・南河原公園のラジオ体操などは場所も広く地域や年代を問わず参加できる

27

（2）具体的な取組内容の検討

③高齢者を対象とした交流の場づくり

○シンポジウムの実施（意見交換会からの主な知見）
（「独居高齢者の見守り・コミュニケーション」における工夫事例）

○実践可能な「見守り」の方法
・朝夕の洗濯物など、生活の状況が分かるものを気にかける
・大規模集合住宅は生活が見づらい、「元気サインの旗」「元気ですマグネット」などの掲示をお願いする

○キーマンなどの活用
・民生委員だけでなく、「地域の商店街」なども地域の広く細かい情報を有し、ネットワークが広い
・プライバシーに配慮し、キーマンを通じて独居高齢者等を把握し、町内会・自治会、老人クラブ、ゆうあいチーム等と連携して参加を呼び掛ける

○独居高齢者自身の心がけ
・日頃から地域のボランティア活動などに参加しておくことが重要

28

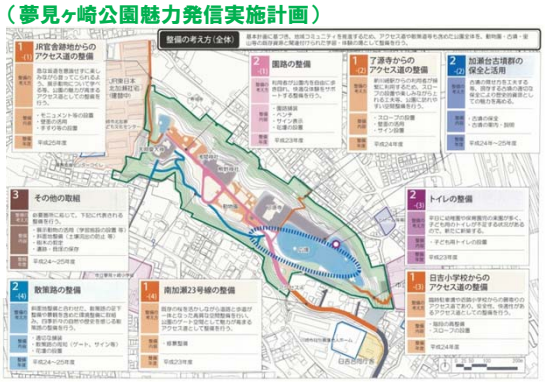
（２）具体的な取組内容の検討

２）継続テーマの具体的な検討

部会では、継続テーマに「夢見ヶ崎公園の魅力発信」を選定し、特にソフト的な取組について検討してきた。

幸区では、アクセス道の整備などのハード面での計画「夢見ヶ崎公園魅力発信実施計画」を昨年3月末にまとめている。

（夢見ヶ崎公園魅力発信実施計画）



29

（２）具体的な取組内容の検討

２）継続テーマの具体的な検討

①基本的な方向性についての検討

取組の基本的な方向性については、概ね次のような検討があった。

- ソフト面での取組を進めるうえでは、利用者のニーズをしっかり踏まえたうえで行うことが必要である。
- このため、ソフト面についての利用者のニーズを把握することが必要であり、ニーズ把握そのものが意義のある取組と考えられる。
- ニーズを把握するだけでなく、利用者が満足できる具体的なソフト施策の実施が重要であることから、区民会議委員のネットワークを通じ、既存の取組と連携していくことを検討する。

30

（2）具体的な取組内容の検討

2）継続テーマの具体的な検討

②具体的な取組内容の検討

基本的な方向性を定めたあとで具体的な取組内容について検討を重ねた結果、次の2つの取組を行うこととなった。

取組項目	項目の具体的な内容
（1）利用者へのニーズ把握（アンケート）	・夢見ヶ崎公園の利用者に対し、既存の取組への満足度・認知度や、公園へのニーズを把握するアンケート調査を実施。
（2）「夢こんさぁと」との連携	・幸区役所と区民のパートナーシップにより平成9年から実施されている「夢こんさぁと」と連携し、夢見ヶ崎動物公園において屋外コンサートを実施（初夏を想定） ・実行委員である神谷委員を通じ、調整を開始。

31

（2）具体的な取組内容の検討

2）継続テーマの具体的な検討

③アンケートの実施（実施概要）

利用者のニーズ把握に関する取組として、夢見ヶ崎公園で実施された「日吉まつり」において「利用者ニーズ調査（アンケート）」を実施した。

調査では、公園利用者の特性、現状の取組の認知度・満足度、将来像（ニーズ）などを把握した。

アンケート実施日時	平成23年11月20日（日曜日）
アンケート対象	夢見ヶ崎公園の利用者 ※一部、利用者以外に協力頂いた票あり
調査方法	区民会議委員等による利用者への聞き取り （一部、利用者が直接記入）
有効回収数	101票

32

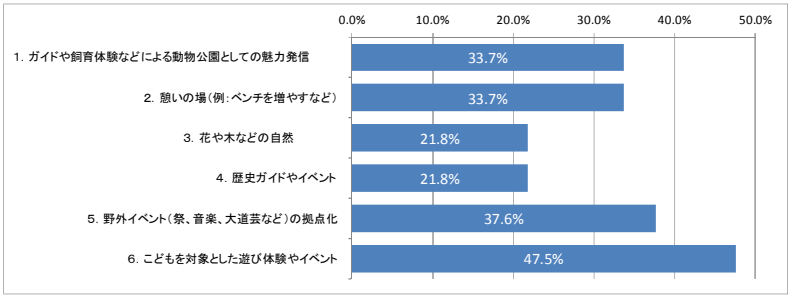
（2）具体的な取組内容の検討

2）継続テーマの具体的な検討

③アンケートの実施（主な調査結果）

将来のあり方については、「子どもを対象とした遊び体験やイベント」のニーズが高く、「野外イベント」がそれに次いで高くなっている。

このため、特に子どもが楽しめるような内容の野外イベントの充実に大きなニーズがあると考えられる。



33

（2）具体的な取組内容の検討

2）継続テーマの具体的な検討

④「夢こんさぁと」と連携したイベント

「月見」、「40周年」などをテーマに、キャンドル作りなどを行い、コンサートや夜の公園のよい雰囲気づくりを行うことを検討。商店会や市民活動団体との連携を検討している。

取り組み項目	項目の具体的な内容
実施時期	・7～8月の実施を想定。時間は夕方以降
夢こんさぁとの内容	・女性のポップ系アーティストがオリジナル曲を展開 ・コンサートの時間は計40分程度
連携イベントの内容	・手作りのキャンドルを実施し、「月見」を楽しむ ・キャンドル作成は事前に教室的なものを実施予定
他団体との連携	・日吉商店街連合会、日吉の「わッ」など（検討中）
PR	・市政だよりなどで広報を展開

34

（3）第3期区民会議からの提言

1）新規テーマの提言

新規テーマ「高齢者のサポート体制と地域コミュニティ」では、これまでの検討や取組を通じ、次の提言を行う。

提言
「高齢者など支援を必要とする方々のため、区民に『地域交流の場』や『日常生活のサポート窓口』の情報発信を進める」

35

（3）第3期区民会議からの提言

2）継続テーマの提言

継続テーマ「夢見ヶ崎公園周辺の魅力発信」では、これまでの検討や取組を通じ、次の提言を行う。

提言
「夢見ヶ崎公園周辺が多世代交流の場となるよう、子どもを中心としたイベントなどを継続的に実施する」

36